

コインランドリー 女性が支持

生活 調べ隊

コインランドリーが様変わりしている。数は年々増え、一人暮らしの男子学生らだけでなく、子育て中の母親や働く女性も足を運ぶようになった。一方で、利用法などを巡るトラブルも絶えない。(西内高志)

す。同様の併設店を関東で他に8店展開する。

厚生労働省によると、コ

インランドリーの数は年々

増え、2013年度には全

国で1万6693か所Ⅱグ

ラフⅡ。1990年代まで

は主に都市部で銭湯や商店

街などに設置され、男子学

生や単身の会社員らが使っ

ていた。今は、郊外に容量

が20〜30ピタの大型の洗濯

機や乾燥機を備えた店が増

え、育児やパートで忙しい

主婦や、共働きの女性が利

用する例が目立つ。

家電メーカー・ハイア

ルアジア(東京)の昨年の

調査では、利用経験者の4

割は女性で、その4割近く

は専業主婦だった。「洗濯

や乾燥の時間が短縮できる

大型乾燥機で時間短縮

の

あるものが増え

るのではないかと指摘する。

一方で、トラブ

ルも後を絶たな

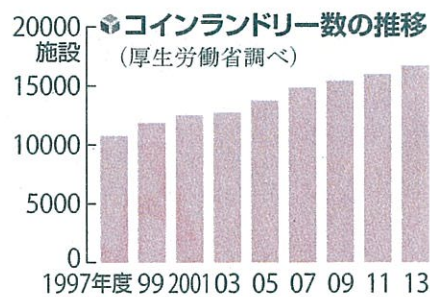
い。全国の消費生

活センターに寄せ

られる相談は20



併設されたクリーニング店のスタッフが機械の使い方を教えてくれる(千葉市のランドリー専科蘇我店で)



大型乾燥機で時間短縮

ほか、毛布や布団などの大物を安価に洗える点も支持されている」と同社。

働いているため、夜に洗濯する女性が、自宅の洗濯機の音が近隣に迷惑だと、利用する例もある。室内干しによる生乾きの臭いを嫌う傾向も利用を後押しする。

神戸市内に3か所ある「ほっと倶楽部」は女性限定の会員制。スタッフが常駐し、休憩スペースや子どもが遊べるスペースがある。年会費は500円。知り合いになった利用者が、食事を持ち寄って洗濯中に食べることも。「昔は井戸端に集まって洗濯した。同様に自然に会話が弾んでい

る」と運営会社。

「創造研究所」(東京)代表の松本大地さんは「今後は機能性や安さだけでなく、交流といった付加価値

のあるものが増えるのではないかと指摘する。

一方で、トラブルも後を絶たない。全国の消費生活センターに寄せられる相談は2010年度以降、年間1200〜1500件。料金を洗濯機

や乾燥機に入れたが動か

ず、金も戻ってこないとい

った相談のほか、脱水や乾

燥が不十分、衣類が縮んだ

り変色したりした、衣類を

盗まれたという例もある。

使っていた乾燥機が故障

し、修理代を請求されたとい

った相談も。

業者で作る全国コインラ

ンドリー連合会によると、

洗濯機や乾燥機に洗濯物を

入れたまま長時間離れてい

るため、終了しても次の利

用者が使えないといった苦

情もあるという。